

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基本とした年間事業計画、個々のサービス計画を作成し、実施した上で見直しや軌道修正を行っています。	三つの理念が作られていて、居間に掲げられている。ホーム内研修で理念についての話し合いが行われている。入居者の方々にはご本人たちのわかる言葉で理念を伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の行事に参加したり、施設の夏祭りには地区の住民を招待して盛大に開催しています。	地区の公民館で行われる「集いの日」には職員や入居者が参加している。毎月1回入居者の好物の「おはぎの日」があり、日頃お世話になっている方々や近所のお宅に配ったりして喜ばれている。ホーム主催の8月の「夏祭り」への参加者が年々多くなっている。中高生の体験学習の受け入れも継続して行われている。認知症キャラバンメイトで資格を取った方々の継続的な勉強の場を兼ねてホームではボランティアとして受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	要請があれば、地域に出て行き認知症の理解や支援の方法を伝える努力をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員の方を施設の行事に招いたり実際に利用者の声を聴いてもらう中で助言や意見を頂き議事録にまとめ職員会議で話し合ってサービス向上を目指しています。	2ヶ月に1回行われている。包括支援センター職員には出席する時に新しい情報の提供や話し合いに関する資料をお願いしている(介護報酬の件・近隣のグループホームの料金・認知症についての資料等)。入居者へのサービス向上と地域の方々への情報提供の方法などを検討している。家族会開催時にも会議の内容を知らせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、常に連絡を取り合い、助言や指導を頂きコミュニケーションをとっています。	包括支援センター職員とは面談や電話等で相談したり情報の交換などを行なっている。管理者が市社協ヘルパー研修に講師として参加している。介護認定の更新は家族の依頼によりホームで行い、調査員に情報を提供している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については定期的に施設内研修を実施し、拘束につながる行為を周知しケアの見直しを行っています。	玄関の施錠はしていない。また、身体拘束も行われていない。職員は拘束による弊害を理解しており、つなぎ服など着用することなく、職員が試行錯誤を重ねつなぎ服に代わる手作りものを入居者に提供したり、入居者の状況を見ながら拘束をしなくても良いような環境作りを考え実践している。	

NPO法人グループホーム赤いにんじん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修を実施し虐待につながるケアをしていないか話し合いをもち虐待を身過ごすことがないように取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を実施し理解を深め必要に応じて支援を行う体制をとっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約内容を説明し、納得の上で契約をしています。入居後も、疑問があれば相談できるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が自分の思いを表出できる場面作りを心がけています。家族には毎月家族会への案内と日頃の様子を書いた手紙を郵送し、遠くから見える家族とはゆっくり時間をとり意見を伺っています。	開設以来毎月家族会が開かれている。昼食会を兼ねた入居者、家族、職員の交流の場となっており、気兼ねなく家族と職員が話が出来ている。職員等の演芸も飛び出し和やかな雰囲気で行われている。毎月管理者が手書きで入居者の現況報告と家族会開催日等を書いた手紙を家族のもとへ送っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年間事業計画、全ての運営事項は職員会で検討した上で実施しています。	年間事業計画をはじめすべてのことを定例会で話し合い決めている。介護職員の確保・定着の推進を図るためのキャリアパス事業にも参加しており、「目標シート」を作成し問題点・課題、目標、取り組み内容等職員が個々に作成し定例会で発表している。職員自身が考えることにより毎日の業務や支援・対応等のレベルアップを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員が意見を言える雰囲気作りを心がけています。個々の状況に合わせて労働時間を調整し、また各自の能力や技術を発揮し意欲的に取り組めるよう役割分担をし責任を持たせています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各人に適した研修、職場研修を年間計画を立て実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	常に同業者との連携を密にして、情報交換で得たことを運営に反映させています。また、同業者の研修を受け入れ、率直に意見交換をしたり、情報交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居決定する際自宅訪問を行い本人と家族に現在の様子を伺い、不安や要望を聴く様になっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族に施設見学をしてもらい自宅との違いをわかってもらう中で不安や要望を伺っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの時に本人家族の要望を伺い、まず必要となる支援について提案し意見を聴いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員会において、介護を受ける立場とサービスを提供する側は対等の立場ということの認識を高める研修を行い、日々の暮らしを共に過ごすようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護計画を立てる時に、本人の意向と家族の意向を確認して家族の役割を計画の中に明記して共に本人の生活を支える立場であることを説明し支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人たちの面会や家族会にもお誘いしています。自宅方面へのドライブを行い、馴染みの人に会える機会も作るようにしています。	「家に帰って一なあー」と言う入居者のつぶやきなどを聞き、受診や外出の時に家の近くへ行ったりしている。職員が電話を掛け入居者が友人や身内の方と話す支援もしている。親戚や近所の方、知り合いの方の訪問が日常的にある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの良いところを説明し、共に暮らすことの大切さを話し合います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時に施設に出来ることがあったら相談して下さいとか、近くに來られた時はお寄り下さいと伝えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から、その人が見えてきますので思いや願いを汲み取る工夫をしています。	朝の10時頃まで入居者と職員と一緒に、ゆっくりとお茶を飲んで世間話をしている。ごく普通の家庭の光景のようである。会話で思いが伝えられない方もいるが、行動や表情、しぐさでわかるという。「こんなかい……?」と職員が言葉にするとコックリとうなずいたり笑ったりして答が返ってくる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	おりにつけて、本人との会話を深めたり家族に今までの生活について聞く機会を大切にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のミーティングに1日の支援方法を個人個人を対象に話し合い記録に残しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族と良く話し合い、以前関わりのあった人たちの声も参考にしてサービス計画に反映させています。	入居者の意向や家族の希望などを聞き、「生活状況表」、「医師よりの状況説明書・提案書」等の資料を基に全職員でモニタリングプランを作成している。ケアプランの中に家族の役割が書き込まれている。「訪問時には、ゆっくりと過ごして頂く」等、入居者と家族の繋がりが途切れない工夫がされている。毎月の家族会で変更のかかったプランなどを家族に報告している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を記録し、1か月毎に要約記録としてまとめて介護計画作成時に反映させます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能施設ではありません。		

NPO法人グループホーム赤いんじん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、入居前のケアマネ、市町村の包括支援センター等と相談しながら支援を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医療機関を主治医として診療その他一人ひとりの健康管理面も指導を受けられる体制になっています。	主治医による往診が1カ月に2回あり、入居者・家族は安心していられる。主治医よりの指導や指示により職員も適切に対応している。ホームには看護職員がおり、医療機関等との連携をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し医療機関と連携をとり、日常の健康管理を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に介護の要約を届け、状態を伝えたり退院時には生活面での注意点を指導して頂く体制をとっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に近づくにつれて主治医より家族、職員に知らされますので、三者で話し合い支援方法を決めます。	開設当初より看取りまで行う方針を本人や家族に伝えている。今年度も1件の看取りを行っており、主治医による協力体制のもと、入居者・家族の意見を尊重しながら、その都度、家族、職員を交え三者で話し合い連絡もとりながら支援方法を決定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応について定期的に施設内研修を実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常時に備え消防署の指導により、近隣住民と避難誘導の訓練を実施しています。	年2回避難訓練が行われている。そのうち1回は消防署指導で入居者、職員、地域住民や運営推進委員の方々の参加をいただき行われた。避難の際に連れ出す担当者を決め、歩行であったり、抱きかかえたりの方法で実施された。消火器訓練の他、隔月の通報訓練として消防署員の指導で実際に訓練通報も行っている。訪問調査当日、スプリンクラーの取り付け工事が最終段階を迎えていた。食料品や水などの備蓄もされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権の尊重とプライバシーについての研修を実施しています。何気なく言ったことが利用者に誤解を与えることもある為ミーティングやケース検討会に全員話し合い周知するようにしています。	一人ひとりの尊重とプライバシー確保について研修会で話し合いをしている。ボランティアの方々にも入居者の方への言葉使いや接し方などの留意点をあらかじめ話し、守っていただくようお願いしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活支援を行う中で本人の意向を確認しながら言葉掛けをしたり希望を表せる雰囲気作りを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の思いや、やりたい事を察知して相談しながら一日一日暮らしを支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に持って来てもらったり、家族に依頼されて衣類を購入していますが、本人に似合う身だしなみが出来るように支援しています。衣服も本人に聞きながら更衣するようにしています。理美容も本人に意向を聞いて行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を実施したり食事の時間に好みを尋ねるなどして一人ひとりの好みを把握して食事を楽しめるようにしています。準備や片付けも出来る範囲で行ってもらうようにしています。	月に一回入居者の好物の「おはぎの日」を設けたり、家族会で家族や来客を招いてにぎやかな食事もしており、楽しみの一つになっている。毎日の食事入居者の好みを考えた献立で、職員の手作りの煮物や漬物など、美味しい食事が提供されている。収穫時になると、大根や白菜、野沢菜、お米など、家族や近所の方からの差し入れが大量にあるという。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は一人ひとりに応じて盛り付けしたり、キザミやミキサー食にしています。食事の摂取量については、様子をみながら記録に残し量が少ない場合は特に注意し工夫するようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は自分で出来る範囲で歯磨きをしてもらい、困難な場合はブラッシング介助するなどしてケアしています。		

NPO法人グループホーム赤いんじん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本としていますが、半数以上は紙おむつの使用となっています。本人の自尊心を損なうことのないように声をかけて介助しています。	入居者が使用するトイレの改築が行われ、重度化してきた入居者がより使いやすい作りになっていた。基本はトイレでの排泄を目指している。ベッド上での排泄の方のために電子レンジが用意されていて、温かい布で清拭が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜など繊維を含んだ物を主にしていますが、どうしても運動不足になりやすいので日課として散歩が出来る人は散歩をしたり、水分を多めにとるように働きかけています。どうしても自力で出ない場合は浣腸を実施しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日と時間帯は決めて行っていますが、本人に入浴の意向を尋ねたりして、強制的に無理強いないように心がけています。一人ひとりがゆったりと入浴を楽しめる雰囲気作りをしています。	基本的には週2回入浴が出来る。入居者の希望時に対応できるように心がけている。介助者2名で対応することもあり、医師よりの指示がある方を除きゆっくりと時間に追われることのないように入っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や就寝時間は利用者一人ひとりの意思に任せていますがゆっくり休めるように就寝前にはスキんシップを心がけ、安心する声掛けをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく服薬を開始する場合は記録に残し周知させています。日々状態の変化を観察し、本人の意向を把握した上で医師と相談して服薬の調整をお願いしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活の中で一人ひとりが楽しみや生きがいであったことを見つけ出し出来るような事について支援を行います。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を聞いて散歩、買い物、美容院、ドライブ等を支援します。家族に働きかけて自宅方面に出かけてもらうこともあります。	訪問調査当日、立春を過ぎたとはいえかなりの積雪で、天気の良い日には短い距離で散歩をしているという。積雪期前までは道路がぬかるんでいても長靴をはいて近くの川の堤防までの道のりを入居者と職員と一緒に楽しみながら散歩が出来ていた。医療機関での受診の帰りにコースを変えたり、行きつけの美容院へと出向いている。	

NPO法人グループホーム赤いにんじん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金については本人、家族の意向を重視しています。自己管理できる方については本人に支払いをしてもらうように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で話ができる方については電話をかけてその都度話ができるよう働きかけをします。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり利用者の好みの写真を壁に飾ったりします。室温・湿度については計器を見ながら調整しています。	一階と二階に炬燵がつくられていて、午前中、職員と一緒のお茶飲みは一階の炬燵で、そのあとは個々の好きな場所で過ごしている。炬燵でゴロンと寝たり、洗濯物を畳んだり、どこにもある家庭の光景が見られた。家族会の写真がフロアに貼られていて、入居者の楽しそうな笑顔を見ることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにコタツをつくりテレビをみたりくつろぐことができるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に使い慣れた物の持ち込みをお願いしています。	畳の居室にベッドが置かれ、家庭よりの家具など持ち込まれている。押入れが開けてあり、見ると、お花とお水が供えられていた。毎日手を合わせているのだと話してくれた。交流のある中学生よりの似顔絵が飾ってあったり、好きな歌詞を書き込んだ紙が壁に貼り付けられていた。入居者一人ひとりに合わせたその人らしい居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	趣味や好きな仕事で自分らしい暮らしができるように支援しています。		